

2020年度 学校関係者評価委員会報告書
および改善方策

学校法人 東京滋慶学園
ベルエポック美容専門学校

2020年7月7日

2020年度 第1回 学校関係者評価委員会議事録

作成者：ベルエポック美容専門学校 東

日時：2020年7月7日（火曜日）10:00～

場所：ベルエポック美容専門学校 第5校舎 101 教室

参加者：＜委員会メンバー＞

村橋 哲矢 様：団体関係者 東京都美容衛生同業組合 専務理事
雑賀 英敏 様：業界関係者 トニーアンドガイ ジャパン 代表取締役（欠席）
青山 清志 様：卒業生代表 アヴェンツファウンデーション 店長
大河 光太郎 様：業界関係者 ネイヴィル 代表
西村 尚美 様：保護者代表
倉澤 弘明 様：高等学校関係者 第一学院高等学校 教務 ICT 支援室 室長
小泉 由梨 様：地域代表 穂伝表参道町会 会長
松永 英樹 様：業界関係者 アビー代表取締役

＜事務局メンバー＞

中村 道雄 ：学校法人東京滋慶学園 理事長
大谷 啓一 ：ベルエポック美容専門学校 学校長
三井 真以子：ベルエポック美容専門学校 事務局長
藤本 拓也 ：ベルエポック美容専門学校 事務局次長
黒崎 洋平 ：ベルエポック美容専門学校 教務部長
岩本 賢矢 ：ベルエポック美容専門学校 美容師科学科長
菊地 慶 ：ベルエポック美容専門学校 トータルビューティ科学科長
今井 香菜子：ベルエポック美容専門学校 ヘアメイク科学科長
加藤 真也 ：ベルエポック美容専門学校 美容師科通信課程学科長
藤井 美江 ：ベルエポック美容専門学校 広報センター長
川畑 誠 ：ベルエポック美容専門学校 キャリアセンター センター長
東 健一 ：ベルエポック美容専門学校 学生サービスセンター センター長

10:00 事務次長 藤本の号令で開会

10:02 資料の確認 藤本

- ・会議次第
- ・自己評価報告書
- ・学校関係者評価委員会 会議資料
- ・学校パンフレット
- ・BELLE TIMES（学報）

10:05 理事長 中村挨拶

学校関係者評価委員会は本校職員が実施した自己点検・自己評価に対して委員の皆様のご意見をいただき今後の運営に反映させる。またこの委員会の結果を踏まえて各科の教育課程編成委員会を開催し職業専門実践課程認定へとつながってゆく本校としては重要なものになっている。委員会に関しては今年度については、新型コロナウイルスの影響で開催が遅延したが、ご参集いただいた委員の皆様には感謝している。忌憚なきご意見をいただきたい。

10:08 学校長 大谷挨拶

理事長同様、忌憚なき意見をいただき、今後の糧にしていきたいと考えている。よろしく願いしたい。

10:10 事務局長 三井挨拶

昨年 11 月の人事異動により、原宿以外に東京葛西、福岡のベルエポック美容グループの学校を担当することとなった。

学校の運営は次長の藤本に任せている。先日の九州の大雨により九州の学校においては学生、職員ともに被害もなく安否が確認できている。

新型コロナウイルスにより、入学式など大型学校行事を中止し、5月のゴールデンウィーク明けより授業をオンラインにて開始した。zoom や youtube といったアプリケーションを利用しながら授業を行った。

6月からはオンラインと分散登校を交えて授業を実施し、6月29日より全面登校を解禁した。

しかしながら東京都の新型コロナウイルス感染者が日々増えていることから、オンラインや分散登校なども交えて授業を進めていければと思っている。

このような取り組みができていながらも東京都の美容学校では数少なく、オンラインが実施できる学校とできない学校に2分されている。新しい技術を取り入れながら実施することの難しさを実感している。

委員の皆様のおかれましても大変な状態だと思う。

本日は貴重な情報を交換しながら学校運営につなげていきたいと思っている。

10:15 委員の紹介 委員各自

村橋 東京都美容衛生生活同業協会専務理事を担っている。当団体は各都道府県に必ず設置している団体である。美容院の経営者 4,300 人ほどの会員がいる。東京都の協会だけに降りる給付金などの調整を行なっている。今回の給付金などは発表の2日後に都庁に申請に出向き手続きを行っている。

松永 美容サロン Abyee の代表取締役である。都内を中心に5店舗展開をしている。新型コロナウイルスでは、4/7～4/22 まで休業した。4月の売り上げは、対前年 1/4 の売り上げとなった。6月に入ってから外出自粛が解除されたことによりお客様が一気に来店し売り上げも伸びている。感染対策などを実施しながら店舗運営を行っている。

青山 アヴェンツファウンダーションの店長をしている。店舗の状況は感染症対策など一連の対策を行いながら運営をしている。

大河 美容室ネイヴィル代表を務めている。卒業生3名で店舗運営をしている。この春、表参道にも2店舗目の出店をした。コロナの影響で4月1週間休業した。お客様の予約に応じて開店させる営業をしていた。

西村 子どもの就職活動を心配している。希望しているサロンが今年度の募集を中止してしまった。このことにより本人のモチベーションが下がっており心配している。

小泉 原宿に8町会あるうちの一つの町会長をしている。三井との出会いでシニアの会でベルエポックと繋がっている。コロナ自粛の際は原宿は静かな街だと思っていたが、規制緩和後は多くの人が押し寄せてきたため恐怖を感じている。

倉澤 ICT支援室室長をしている。通信制高校で6,000名ほどの生徒がいる。校舎は全国にある。通信制高校という特性上、転校生が多いが5月の転校生が例年なく少なかった。コロナの影響で通学学校の授業がないため、学校に合わない生徒の転校が少なかった。自宅学習の影響で生徒の気持ちも登校しなくても良いのではないかと思っている。オンラインとオフラインの違い、定義について再確認している。

10:25 昨年度についての自己点検・自己評価の説明 藤本

学校関係者評価委員会目的の確認 藤本

各学校が自らの教育活動等の成果や取り組みを不断に検証することにより

1. 各学校が、自らの教育活動そのほかの学校運営について、組織的・継続的な改善を図る。
2. 学校評価の実施・結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者・地域住民等から理解と参画を得て、その連携協力による学校づくりを進めること
3. 設置者が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、教育水準の保証・向上を図ること。

上記3点が目的となる。

評価の方法 藤本

1. 各学校の教職員が行う自己評価
2. 保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会が、自己評価の結果について評価することを基本として行う学校関係者評価
3. 学校と直接関係を有しない専門家等による客観的な評価として第三者評価があるが本校は受信していない。これは評価にかかる費用が大きいいため学内の財務基盤、収支があわないために受信を見送っている。

職業実践専門課程の説明 藤本

文部科学省告示第 133 号平成 25 年 8 月 30 日に規定されている。

専攻分野に関する企業・団体等との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っている。

企業と連携して、実習、実技、実験または演習の授業を行っている。

企業と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っている。評価を行い、その結果を公表している。

評価にあたっては、関係者として企業の役員または、職員を参画させている。

企業に対し教育活動や学校運営の状況に関する情報を提供している。

本校では美容師科が対象となる。

トータルビューティ科、ヘアメイク科については来年に向けて申請準備をしている

2019 年度重点目標 藤本

< 定量目標の説明 >

- ・ 入学者数 400 名以上
- ・ 退学率 6.8%以内
- ・ 就職率(内定率)100%の実現

< 重点項目 >

1. 本校が独自に実施する「原宿コラボレーション」(配布資料参考)において、本校と原宿の地域文化・企業との連携を推進し、業界で求められる技術力とコミュニケーション力を持った人材育成ができる教育システムを構築する。
2. 変化の激しい時代で活躍できる「自己変革型」の人材を排出する為に、人間力を強化し「人徳」と「熱意」を兼ね備え、主体的に行動できるようにしていく。

コラボレーションは年間 1 2 0 0 件程の実績があり、多い学生だと年間 70 件以上のコラボレーションに参加し、そこから就職に結びついている例もある

2019 年度重点目標達成状況 藤本

- ・ 入学者 目標：400 名 実績：464 名(昨年：448 名)
- ・ 中途退学者 目標：50 名／842 名 (5.9%) 実績：66 名／842 名 (7.8%) (昨年：6.8%)
- ・ 転出者数 実績：3 名(昨年：2 名)
- ・ 美容師国家試験 目標：100% 実績：96.2%(昨年 95.7%)
- ・ 就職率(内定率)3 月末時点 目標：100% 実績：100%(342/342)

自己点検・自己評価説明 藤本

自己点検・自己評価に基づくポイントの説明。

2020年度の重点目標の説明 藤本

入学生 400名確保、退学率 5.8%、就職内定率 100%

教育については退学率だけを追うのではなく、自己変革型人材の育成にも力を入れていきたい。

IT、ICT、VRなどTECH（革新技術を利用した）教育にも力を入れていきたい。

10:45 委員審議

村橋 コロナに対しての対応の早さは素晴らしいと思った。コロナは全職種で初めて対応することが多くある。美容業界ではチケットをネット販売など始まった。授業実施に際し、現状を見てできないとするのではなくオンラインなど取り入れて新しい取り組みなど実施しているのは評価できる。

松永 迅速な対応ができていると思う。考えらることを最大限行っていると思う。例えば動画を見ながら技術の体得ができるのかという部分においては、果たしてできるのかという疑問が10年ほど前ならあったと思うが、時代は変わっており今は携帯デバイスとしてスマートフォンの利用など情報インフラの発達により様々な学習様式が出たと思う。その点も今後は期待したい。

青山 現在、保育園児の子どもがいるが、保育園では遠隔保育はない。学校の授業に関しては、オンラインの授業について上手くいっていると言っている人と、目の届かないところで学生たちの意識がどのようになっているかわからないという不安を持った周囲の話が聞こえてくる。

この、環境的にも誰しものがピンチな状況であると思うが、チャンスととらえて動くことが大切だと思っている。まずはやってみて修正を重ねていくことが重要と思う。

現在の勤め先では仕事として考えていくことが多く不安に感じることもあるが、自分のスタッフ（部下）に関しては自分以上に不安に感じていると思う。

授業に関しては実技など繊細な技術の勉強にはオンラインは不向きだが知識を身に付けていく授業に関してオンラインは有効だと思う。

今すぐ何かということは難しいが現場と学生を結びつけることは考えていきたい。

（ベルエポック美容専門学校の）ボランティアは前回、前々回についても問題としていたが、その本質を考えたときに学生の自発性が重要であり、ボランティアに参加してもらうための仕組みを考えていくべきだと思う。（スポーツ用品・衣料関連企業の）パタゴニアのようにワークショップなどを実施し外部発信することでボランティアに参加してもらおうという意識をもってもらうという方法もあると思う。そういう点ではこのワークショップは評価できると思っている。

コロナ禍の中、原宿周辺の治安が悪くなっているように思える。不審者が目立っているので学生の安全の担保もお願いしたい。

大河 今までのことを変えていくスピード感は凄いと思う。固定観念を変えていくことはとても大変。技術教育については新しい学びの方法をどこまで取り入れていくかという

線引きは重要だと思う。特に変化していくことに対するストレスは見逃すことはできない。教育の部分では学生の積極性もあり学習進度がここに異なることが出てくると思う。学生個々に学習進度が異なり支援の方法が異なってくるのでこの点について学校として工夫をしてほしい。

西村 オンライン授業の実施は良いと思った。技術授業を家庭で実施するのは大変で、それに合わせるための出費が嵩んだ。家庭環境も学習に特化しているわけではないので、その部分を整えていくのは大変だと思った。

藤本 オンライン授業を実施する前に全学生に通信環境の状態に関するアンケートを実施した。通信環境なども把握をしながら、家庭内での学習環境に関しても他の家族とパソコンの利用が重なってしまうためスマートフォンで授業を受けるなど、各家庭の環境が様々ある中、オンライン授業を強行的に実施した部分もある。

西村 カットの授業などを家庭で行った場合、髪の手入れなどの不安があった。また実技結果を見てもらってアドバイスを受けるということがオンラインではできないので、そういう点では実技の授業を家で行うのは難しいのかなと思った。

小泉 新型コロナと同様の重篤感染症は過去にも流行したことがある。歴史的な事実があってもその対応ができていない部分がある。渋谷区の小中学校では全生徒にタブレット端末が配布されているので、遠隔授業に対してうまく対応できていると思う。特に学習計画の遅滞がないため夏休みなどの長期休暇も予定期間を短縮することなくとることができる。

オンラインでは素材など触感を感じることができないので、そのような体験を通じての学びとすみわけをすることが必要であると思う。

自己点検自己評価の資料から学校の指針として、「魅力を作り出す」という項目があっても良いのではないか。「魅力」を定義することは教育内容、環境、人など様々な角度から考えることはできる。

原宿は（財政的に）宝の宝庫で、様々なところで援助を受けることができる。子供支援の活動を社会福祉協議会から委託されたが渋谷区の助成金が少なかった。そこで地域の企業にスポンサーになってもらうことで運営費を賄うことができた。

倉澤 ベルエポックのオンラインなどの対応は早いと思った。ICTはルーツなのでやる気がないと効果が出ない。その点の目的意識の引き出しは重要である。ボランティアは目的意識の部分では高校だとPBLなどの教育技法を用いて生徒のニーズを引き出して実施をするのが良いのではないか。

アーカイブとオンラインに関しては、その場でつながる「同期型」と自分で何度も繰り返し学習ができる「非同期型」の2軸があるので、その住み分けとしてライブで実施するもの、繰り返し学習ができる物とのコンテンツの整理は必須と思われる。

保護者会なども遠隔で実施するのは良いと思う。相手に主導権があることが受けている要因と思われる。その一方、「熱が伝わりにくい」「直接会いたかった」などの言葉もある。

退学に関しては新たな進路設定がある場合と、続けたいと持っているが続けることが困難なケースがあるがベルエポックの現状はどのようなになっているか？

黒崎 本校の退学要因は大きく3つある。

1つ目は進路変更、2つ目は身体症状、3つ目は学内状況の不適合となっている。

1つ目の進路変更の裏側には、メンタル面が脆弱となり人間関係が保てず、結果、進路変更となっているケースがある。本校で力を入れていきたいのが人間関係、クラス形成である。

藤本 身体状況の悪化については、満員電車での登校が起因しているものも目立っている。

自宅の近くに学校があれば解決するのかもしれないが、電車に乗って通学をするということが負担になっているので、この点の対応は学校としても難しいところである。

倉澤 そのようなこと（電車通学が苦痛で退学に至ってしまうこと）がオンラインによって軽減されるとよいと思う。

川端 委員の皆様には質問ですが、学生の就職に関しては、将来行きたい目標があってベルエポックに来た。しかしコロナによって学生たちが築き上げてきたものが白紙となりモチベーションが低下となっているケースがある。学校としても様々な支援策を講じているが、サロンとして今後人材採用はあるのか。どのようなことが予想されるのか知りたい。

村橋 組合として座談会を実施したが、現段階では様子見しかなくそれ以下でもなくそれ以上でもない状況。現在の需要回復を見ると以前の状況に戻ってくるとは思っているが現実判断として今一步踏み込めていない状況である。

松永 アビーでは次年度新卒者の採用はない。しかし2年後に新店舗を出店する計画があるので次々年度の採用は考えている。

青山 採用については難しい。新型コロナの影響で店舗経営が精一杯の部分がある。

大河 今年度は新卒を採用する方向。採用人数は多くはないが、助成金を活かすためにも現状維持のためではなく進展していくために活用したい。

川畑 保護者としては（就職に関しては）学校に何を求めるのか？

西村 まずは美容師になってもらうこと。その次に就職となるが子どもの希望するサロンの採用がない場合、就職浪人を受け入れてくれるのか？その点が知りたい。

もし、そうなった時（就職浪人を選択したとき）にきちんとした結果（希望通りの就職）が得られないと1年を棒に振ることになるので、それは絶対に避けたい。

たとえばとりあえず就職をして1年間は働き希望するサロンに再チャレンジした場合、大手のサロンでは美容経営に関して未経験の新卒者を採用したいという思惑があることは分かっているので、その点どのように考えているか知りたい。

川畑 西村様のお話は同じように就職戦略として就職浪人を考えている学生は本校の学生に限らず一定数いると思う。その点、業界はどのように考えているか。

村橋 難しい話であるがマーケットの状況でいくと、トップサロンは店舗の中でもスタッフの生き残りをかけているレッドオーシャンという状況になっている。そこで競合が少ないブルーオーシャンの職種、美容師の免許の有無は強く問われないが世間から感謝される職種に行くという選択肢もあるのではないかと考えている。

松永 サロン経営者としては就職浪人に関しては価値があると思っている。希望サロンへの就職だけがゴールではない。その受け入れはサロンによると思う。

青山 サロンに入りたいという情熱を持っているのであれば受け入れたい。ただし憧れのサロンへの就職がゴールではないと思っている。自分が理想とする美容師像を持っていることが大切。

大河 新卒採用、中途採用に関してはサロンの考えによるところなので、希望するサロンに確認することが最善。サロン就職をゴールにしてはいけない。就職したサロンで何が得られるのかが重要だと思う。働く環境はブランドではなく自分自身が将来なりたい美容師像や計画を立てることができ実行できるまたはその知識を得ることができることが大切だと思う。そういう点ではうちのサロンを熱狂的に考えて就職先として考えてくれるのは嬉しいのはもちろんのこと、美容師のキャリアの1ステップとして考えてもらっても構わない。

藤本 ICT教育について知りたい。環境や機材などオンライン授業を実施する配信側のアドバイスをしてほしい。

倉澤 環境は回線の状況による。また受け手側の環境も重要（授業が受けられる体制にあるのか）。機材などの遠隔授業が最適にできるように準備を整えている。本部のスタジオから配信したり、拠点学校から配信していたりと配信方法は多岐にある。

大谷 本日はありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。

中村 新型コロナにより、日本が国際的に遅れている部分があることもわかり、大いに反省する点があると思った。委員の皆様のご意見を活かして学校運営に携わりたい。本日はありがとうございました。

次回、10月13日（火）10：00～ 令和2年度 第2回 学校評価委員会実施予定